

2018年6月1日

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 6月えんだより

6月の聖句 「空の鳥をよく見なさい」・・・あなたがたの天の父は
鳥を養ってくださる。

マタイによる福音書6章26節

今年は、季節の移り変わりが少し早いと言われています。暖かな春の日差しから、夏を予感させる暑さを感じながら過ごしています。子ども達は、新しい環境になった四月から少しずつ慣れていき、自分の身のまわりの世界から外へ、外へと目が向き始めています。

さて、保護者の皆さんも、私達も子ども達が園で生活していても、気になる時、心配になる時がありますね。特に病気や体調がすぐれない時は、思い悩む時間を過ごす時があるのではないのでしょうか。米国の心理学者の調査では、人間の「心配する思い」「悩み」は凡そ80%の方が、滅多に起こらないことや過去の出来事、又特段の理由はないが「心配な思いになる」というデータをとられた方がいました。自分の場合に置き換えてみても、確かに余計な心配をする時が多いことを改めて感じます。

イエスのたとえ話の一節です。「自分の命の事で何を食べようか。何を飲もうか。また自分の体のごとで何を着ようかと思ひ悩むな」とあります。つまり「心配するな」と始められ、「空の鳥をみるがよい。紡ぎもせず、蒔きもしない。しかし天の父は養ってくださる」といいます。つまり、空の鳥は、明日のことが心配で餌をとり込み、餌が必要だから種を蒔くこともしない。が、この地に神様が「生命」を与えて、生かして下さっています。思い悩むことがどれ程人間を苦しめるか？変える事のできない過去、そして、知る事のできない未来に対して、私達は心を奪われてしまいます。

「今を生きる」「今日という日を大切に生きる。」私達は明日があることが当たり前にあります。無論そう思って計画をして、考えることを止めません。又、私達は病の時には健康を与えられている時がどんなに幸せかを感じたこともあるでしょう。日常が当たり前にあることを省み、与えられた命を今この時を精一杯の喜びを持って生きることを神様は望んでいるのです。

子ども達は、まさに「今を生きる」手本だと私は思います。一つ一つに心を動かし、喜び、悲しみの表情を素直に表し、物事に疑問を持ち、触れたり、見たりとしながら生きています。そうした、今を生きる喜びを共に感じる日々でありたいと願います。

6月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	おもしろい	動き出す
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> *保育者や身近な友だちと好きな遊びを見つける。 *まわりの物を見たり、触れたりして喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> *神様の創られた自然の不思議さに目を向ける。 *遊びを楽しむ中で自分の気持ちを伝えようとする。 *友だちや保育者の言動、遊びに心を動かす
讚美歌	ことりたちは こども改 10	こどもをまねく 川上牧師 作詞作曲